

本調査の特徴

本調査は、小・中学生の子どもをもつ保護者の家庭での子育て生活の実態、しつけや教育に関する意識をとらえることを目的として実施している。同じ目的で1998年に第1回、2002年に第2回、2007年に第3回を実施し、今回が第4回となる本調査は、これまでの調査との経年比較ができるよう配慮して設計した。

本調査の特徴は、以下のようにまとめることができる。

① 時代による変化を把握することができる

本調査は、時系列で調査することを目的として企画されている。質問項目は、教育環境の変化に応じて、多少の追加・削除はあるが、毎回ほぼ同一のものを使用している。第1回の1998年調査では、対象が小学3年生～中学3年生の子どもをもつ保護者であったため、13年間の比較は小学3年生～中学3年生で行った。また、できるだけ正確に比較を行うため、1998年、2002年、2007年とほぼ同じ学校に調査を依頼し、経年のサンプルの性質が大きく異なることがないように配慮している。

② 小学1年生～中学3年生までの学年による違いを把握することができる

本調査は、小学1年生～中学3年生の保護者を対象としている。したがって、子どもの発達や学年の違いによって、保護者の教育に対する意識や、子どものしつけの仕方がどのように変わるかをとらえることができる。

③ 教育環境の変化に対応する意識・行動をとらえるために新規項目を追加している

子どもと保護者を取り巻く社会環境は、著しく変化している。今回の調査の実施時期は、東日本大震災の年であるとともに、小学校では新しい学習指導要領全面実施の初年度、中学校では全面実施の前年度という時期にあたる。そこで、震災ならびに学校や学習に関する状況の把握が重要であると考え、関連項目を追加した。学校に関しては、今回、1998年以来13年ぶりにしつけや教育に関する家庭と学校の役割分担についてもたずねた。また、子育てにおける父親の重要性が指摘されていることから、父親の子育て参加に関する項目を追加した。さらに、子育ての基礎的な状況をより詳細に把握するため、子育ての時間に関する項目も追加した。

1 調査テーマ

小・中学生をもつ保護者の子育て生活の実態、しつけや教育に関する意識

2 調査方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

3 調査時期

1998年調査（第1回調査） 1998年12月

2002年調査（第2回調査） 2002年 9月

2007年調査（第3回調査） 2007年 9月

2011年調査（第4回調査） 2011年 9月

4 調査対象

【1998年調査（第1回調査）】

- ・首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学3年生～中学3年生の子どもをもつ保護者4,718人（配布数8,380通、回収率56.3%）。
- ・分析対象は母親（4,475人）のみ。

【2002年調査（第2回調査）】

- ・首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者6,512人（配布数9,038通、回収率72.1%）。
 - ・分析対象は母親（6,085人）のみ。
 - ・1998年調査との比較時の分析対象は、小学3年生～中学3年生の母親（4,896人）。
- ※2002年調査では、地域比較のため、地方都市、地方郡部でも調査を行ったが、今回の分析には含めていない。

【2007年調査（第3回調査）】

- ・首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者7,282人（配布数9,962通、回収率73.1%）。
- ・分析対象は母親（6,770人）のみ。
- ・1998年調査との比較時の分析対象は、小学3年生～中学3年生の母親（5,315人）。

【2011年調査（第4回調査）】

- ・首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者8,079人（配布数10,265通、回収率78.7%）。
- ・分析対象は母親（7,519人）のみ。
- ・1998年調査との比較時の分析対象は、小学3年生～中学3年生の母親（6,020人）。

5 調査項目

子育ての悩み・気がかり／しつけや教育の情報源／子どもの日ごろのようすや生活習慣／子育ての場面／子育てで心がけていること／家庭の教育方針／配偶者との関係／子どもの家庭学習のようす／学習へのかかわり／子どものメディアの利用／家庭と学校の役割分担／学校の取り組み・指導に対する満足度／今年度の学校のようすや新しい学習指導要領／学力観・勉強観／希望する進学段階／中学受験／子育て時間／塾や習い事／教育費／子育ての楽しさ など

分析の枠組みとサンプル数

調査対象となった保護者の内訳は、次のとおりである。

1998年調査

首都圏：母親4,475人、その他（父親や祖父母など）210人、無回答・不明33人

2002年調査

首都圏：母親6,085人、その他（父親や祖父母など）320人、無回答・不明107人

地方都市：母親1,438人、その他（父親や祖父母など）113人、無回答・不明20人

地方郡部：母親1,518人、その他（父親や祖父母など）205人、無回答・不明51人

2007年調査

首都圏：母親6,770人、その他（父親や祖父母など）442人、無回答・不明70人

2011年調査

首都圏：母親7,519人、その他（父親や祖父母など）449人、無回答・不明111人

本調査では、調査対象となった保護者のうち、母親にしばって分析を行った。分析の枠組みとサンプル数は、以下のとおりである。

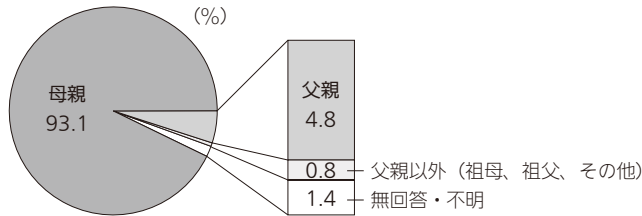
| | | 学年 | | | | | | | | | | |
|---|--------|---------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-----|
| | | 小1生 | 小2生 | 小3生 | 小4生 | 小5生 | 小6生 | 中1生 | 中2生 | 中3生 | 不明 | |
| 小1～ 中3生 ↓ 9年経年比較 ↓ 13年経年比較 | 小3～中3生 | 1998年調査 首都圏・母親合計4,475人 | — | — | 492 | 510 | 543 | 585 | 901 | 806 | 621 | 17 |
| | | 2002年調査 首都圏・母親合計6,085人 | 577 | 610 | 612 | 573 | 604 | 603 | 858 | 823 | 823 | 2 |
| | | 2007年調査 首都圏・母親合計6,770人 | 728 | 709 | 659 | 580 | 475 | 474 | 1,094 | 1,000 | 1,033 | 18 |
| | | 2011年調査 首都圏・母親合計7,519人 | 666 | 691 | 689 | 751 | 673 | 721 | 1,181 | 1,070 | 935 | 142 |

●本報告書を読む際の注意点

- ・本報告書では、母親のみを分析対象とした。
- ・2011年調査の全体値は、小1～中3生の子どもの母親7,519人を母数とした数値である。
- ・1998年調査、2002年調査、2007年調査、2011年調査の13年比較は、小3～中3生の母親を対象にしている。2002年調査、2007年調査、2011年調査の9年比較は、小1～中3生の母親を対象にしている。
- ・本報告書では、学年の呼称を「小1生」…「中3生」と略記した。
- ・本報告書では、学年段階を示す「小学校低学年」は小1～小2生、「小学校中学年」は小3～小4生、「小学校高学年」は小5～小6生、「中学生」は中1～中3生を示している。
- ・本報告書で使用している百分比（%）は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。

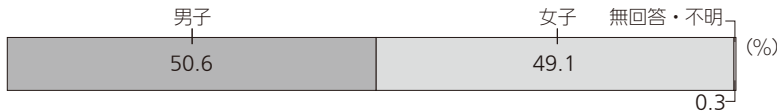
今回の2011年調査でご回答いただいた保護者8,079人について、子どもとの続柄の内訳を図Xに示した。回答した保護者のうち、母親は93.1%を占めた。以下のA～Cで示す基本属性は、とくに注記がない限り、分析の対象である全母親7,519人を母数とした数値である。

図X 続柄

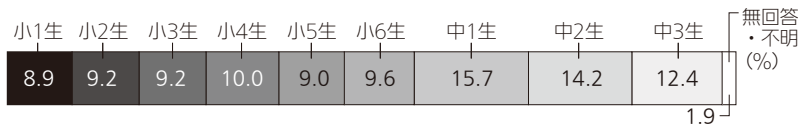


A. 子どもの属性

図A-1 子どもの性別



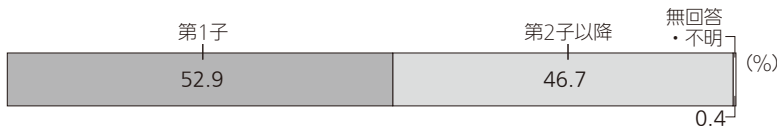
図A-2 子どもの学年



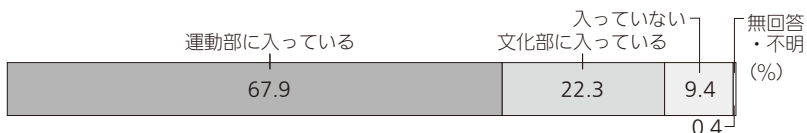
図A-3 子どものきょうだい数



図A-4 子どもの出生順位



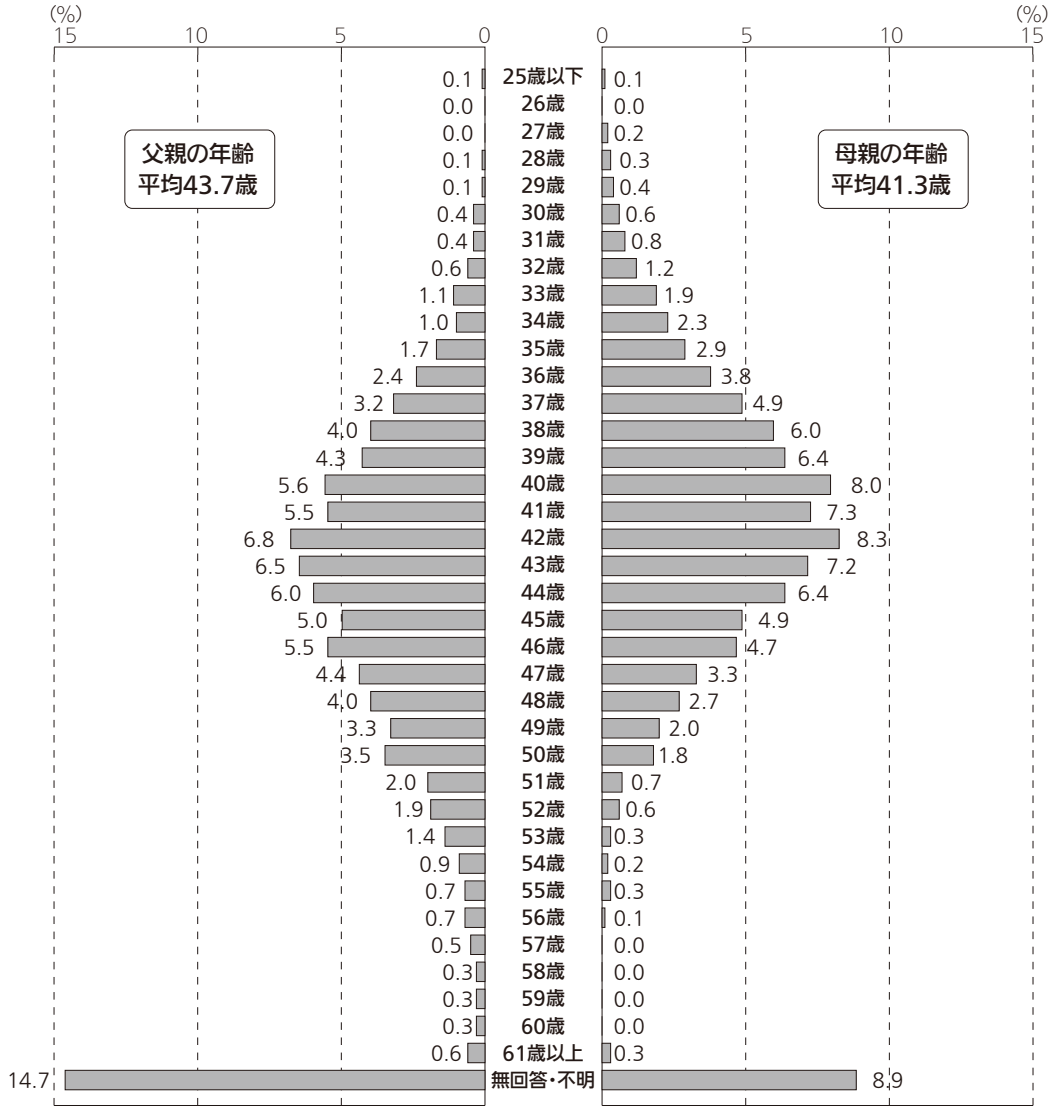
図A-5 部活動加入の有無 (中学生)



注) 中学生のみ回答。

B. 保護者の属性

図B-1 父親・母親の年齢分布



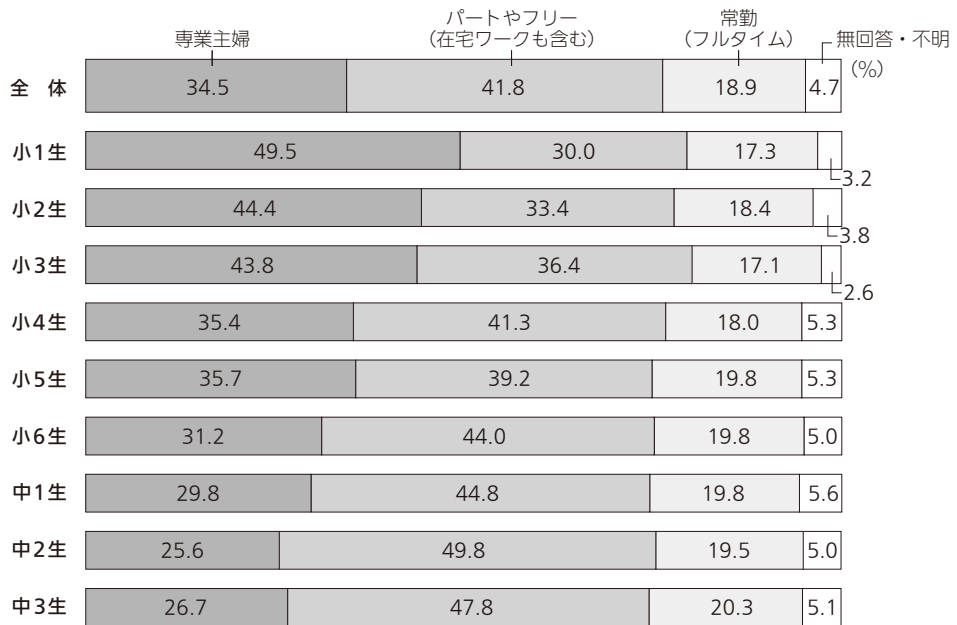
注) 平均は、無回答・不明を除いて算出した。

表B-1 父親・母親の平均年齢 (学年別)

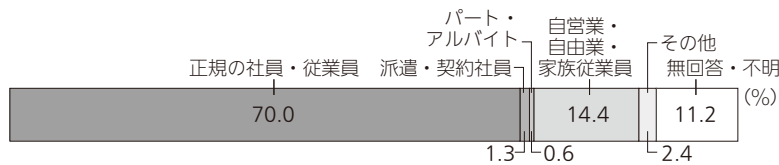
| | (歳) | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 小1生 | 小2生 | 小3生 | 小4生 | 小5生 | 小6生 | 中1生 | 中2生 | 中3生 |
| 母親の年齢 | 37.6 | 38.8 | 39.0 | 39.9 | 41.0 | 41.7 | 42.6 | 43.4 | 44.3 |
| 父親の年齢 | 39.9 | 40.8 | 41.3 | 42.4 | 43.1 | 43.9 | 45.4 | 46.0 | 47.2 |

注) 平均は、無回答・不明を除いて算出した。

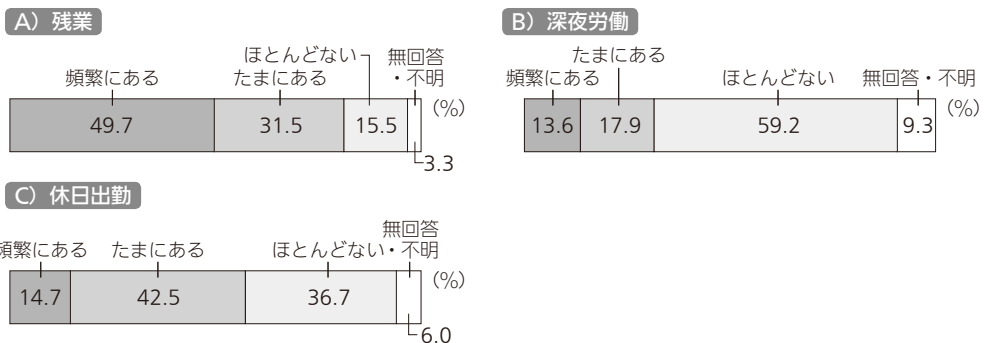
図B-2 母親の就業状況（全体、学年別）



図B-3 父親の就業状況



図B-4 父親の現在の勤務状況



注) 父親の現在の勤務状況は、父親の就業状況が「正規の社員・従業員」「派遣・契約社員」の人のみ回答。

図B-5 母親の学歴



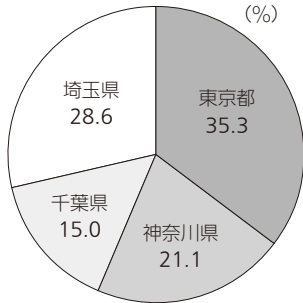
図B-6 父親の学歴



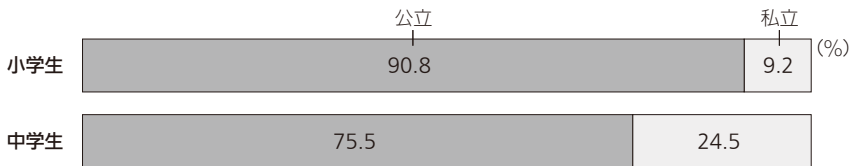
注) 母親と父親の学歴については、「あなたは(あなたの配偶者は)大学・短期大学を卒業している」を選択した人を「大卒・短大卒」、選択しなかった人を「非大卒・非短大卒」とした。

C. 家庭環境

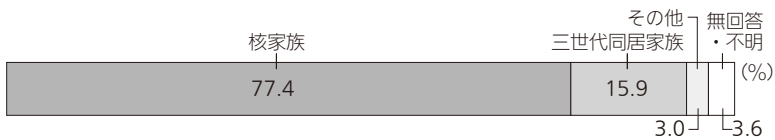
図C-1 学校の設立地域



図C-2 学校の種類 (学校段階別)



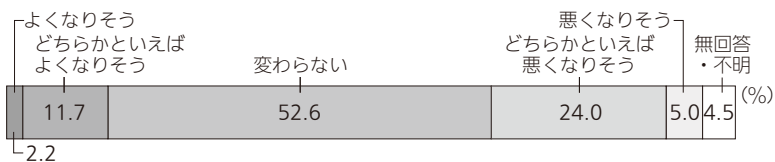
図C-3 家族構成



図C-4 生活の経済的なゆとり



図C-5 今後の暮らしむき



図C-6 東日本大震災による将来不安度

